

クロモジ枝葉からの精油抽出における採取時期・保管期間・保管方法の検討

○岡野達也

【はじめに】

本州に広く分布する低木性落葉広葉樹のクロモジ (*Lindera umbellata*) は、近年アロマ等の原材料として需要が高まっている。県内(主に南会津地域)では原材料を野生資源に依存しているが、資源量は限られているため有効活用が課題となっており、一層効率的な資源の利用が求められる。そこで、クロモジ枝葉の採取時期の違いや採取してから抽出するまでの保管期間・保管方法の違いによる精油抽出率への影響を調査した。

【調査方法】

試料採取地を郡山市にある多田野試験地の広葉樹林とし、以下の調査を行った。

①採取時期と精油抽出率の関係

令和5年5～11月の間、2ヶ月ごとにクロモジの葉を採取した。採取した試料は5mm程度の大きさに裁断を行い、精油定量装置にて蒸留し精油を採取した。

②保管期間と精油抽出率の関係

令和5年7月に枝葉を採取し、採取した試料を混合して均等になるよう6つに分け、バットに入れて自然乾燥させ保管した。保管期間はそれぞれ1日間、3日間、1週間、2週間、3週間、2ヶ月とし、保管後は細枝(5mm未満)と葉に分け裁断し精油を採取した。

③保管方法と精油抽出率の関係

令和5年10月に枝葉を採取し、採取した試料をそれぞれ「通常保存」、「密封+冷蔵で保存」、「減圧+冷蔵で保存」(図-2)の方法で3週間程度保管し、保管後は細枝と葉に分け裁断し精油を採取した。

【結果および考察】

調査①では、精油抽出率は7月が最も高く11月に最も低くなることが明らかとなった(図-1)。調査②では、枝葉ともに試料を採取してから2～3週間程度までは含水率の減少とともに精油抽出率も2割程度減少していることが明らかとなった。調査③では、「減圧+冷蔵で保存」した場合の精油抽出率が最も高く、「通常保存」と比べ2～3割程度の差があることが明らかとなった。これらの結果から、精油抽出率の高い夏期にまとめて採取を行うこと、採取後すみやかに抽出を行うこと、それが行えない場合には採取後に減圧保存を行うことで、資源を有効に活用できると考えられた。

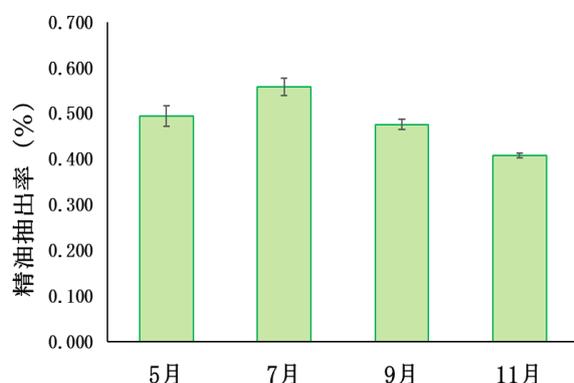


図-1 月別の精油抽出率



図-2 減圧パックによる圧縮の様子